

はつらつ座安っ子



【学校だより：令和4年5月 第4号】
豊見城市立座安小学校 校長：具志直哉

なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って粘り強く生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！



子どもへの教育は、言葉を中心に行います。ですから親や教師は子どもが自分のままの自分を受け入れ、自ら伸びていく力を発揮できるよう“言葉の技術”をみがく必要があると思います。

本号では、座安小学校で全教職員で共有している“言葉の技術”を紹介したいと思います。この言葉の技術は、子どもが一番信頼し、最も必要としているお父さんやお母さん、保護者の方にこそ、知ってほしいし、我が子のために役立ててほしいと願います。

我が子を育む親、保護者として大切にしたい「聴く力」

「言葉の技術」と書きましたが、話術ではありません。実は「聴き方」です。子どもの話しや思いをよく聴き、受け止め、そして受け入れ、子どもに「どんな言葉を返していくか」、この受け止め方、返し方を含めた「聴き方」が、子どものやる気を引き出し、自ら考え伸びていこうとする力につながる“言葉の技術”なのです。

この「聴き方」「言葉の技術」として、保護者に紹介したいのが「親業」です。50年近く前に世に出されたこの書籍（トマス・ゴードン著）は、多くのカウンセラーや親、教師が人を育てる「聴き方」の不易のバイブルとして参考にし、活用してきました。親として教師としての基礎・基本であり、しつけや教育の根幹になると考えます。先日テレビで、“てい先生”というカリスマ保育士を紹介していましたが、てい先生も、この親業が根底にあるんだろうなと思いました。



こんな「聴き方」していませんか！？

～子どもが心を閉ざし、考える力を奪ってしまう「お決まりの12の型」～

まず、「親業」に記載されている、親として、やってはいけないダメな聴き方、返し方をまず知ってもらおうと思います。例えば、テストの点が悪くて落ち込む子どもが「テスト、全然ダメだった…もう最悪」と元気なくあなたに訴えてきたとき、あなたはどのように聴き、そして返しますか？ 以下は「お決まりの12の型」の対応例です。

- (1) 命令 「じゃあ、次からはもっと勉強しなさい」
- (2) 脅迫 「ちゃんと勉強しないとろくな高校に行けないよ！」
- (3) 説教 「勉強してない人がテストでいい点取れるわけじゃない」

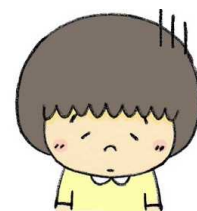
- (4) 提案 「塾の日にち増やしてもいいんじゃない。」
- (5) 講義 「勉強って毎日の積み重ねだからね。短い時間でもいいからコツコツやる習慣が大切。勉強が出来る子ってみんなそうよ。」
- (6) 非難 「自分が勉強しないからでしょ！何言ってるの！」
- (7) 同意・賞賛 「結果は出なかったけど、今回は勉強頑張ってたと思うわよ」
- (8) 侮辱 「日頃の行いが結果になったんじゃないのかな！」
- (9) 分析 「朝ごはん食べていなかったから頭が働かなかったんだよ」
- (10) 同情 「残念だったね、でも次はきっといい点取れるよ！頑張ろう！」
- (11) 尋問・質問 「答えは全部書いたの？テストはいつ戻ってくるの？」
- (12) ごまかし 「とりあえず、おやつがあるから食べようか」



<＊「親の学校プロジェクト」HPより抜粋>

日ごろの対応に当てはまるものがありましたか？ もちろん、多くの親や教師は、子どもを否定しようと思って「お決まりの12の型」を使っているわけではないと思います。逆に、励ましだったりがんばってほしいという願いだったりします。しかし残念ながら「お決まりの12の型」では、次のようなメッセージが伝わってしまうのです。

- 「私のこの気持ちは大したことないと思ってるんだ」
- 「問題は私だと思ってるんだ」
- 「私の言う事を真剣に考えてはくれないんだ」
- 「私がどんな気持ちでいるか気にしてないんだ」



なぜ上記の□□内のように伝わってしまうのでしょうか。実は「お決まりの12の型」は、すべて教師や親、聞いている大人の意見だからなのです！ おしつけ？

そこには、大人と子どもという上下関係が存在し、教師や親が一方的に子どもに教えてあげよう、何とかしてあげようという気持ちが存在するようにも思います。

どんな「聴き方」をしたら？ ～要は気持ちをくみ取ること！～

誰しもそうだと思います。困ったり悩んだりして誰かに相談したり、訴えたりする一番の目的（願い）は「自分の気持ちをわかってほしい」ではないでしょうか。

私もみんなそうだと思うのですが、家に帰って妻（夫）に「今日、仕事で失敗しちゃって、もう最悪！」と相談（訴え）した時に、妻（夫）から『じゃあ、失敗しないようにもっと頑張れ』とか言われたら「最悪！」（頑張っていないと思ってるの！）と思いませんか？ ましてや「仕事も毎日の積み重ねだよ！コツコツやる習慣が大切。できる人はみんなそうだよ」などと言われたら、『めんどくさ！』（そんなことわかってるよ！）と怒りまで込み上げてきそうです。こういうやりとりが続けば、もう話したくない、相談するだけ損だ！と思ってしまうのも無理ないように思います。

要は気持ちをくみ取ること！、
『テストの点数が悪くて落ち込んでるんだね！残念だったね』と、
『仕事の失敗は気持ちが落ち込んでしまうね』と、
共感するだけで救われたように思います。話してよかったとも思うのでは？



「親業」では、『子どもは自分の問題や課題を自分で解決できる能力を持っている』（信用・信頼）をととても大切にします。我が子の「自力解決能力」を親が信じてあげることです。共感してくれることで心が落ち着き、落ち着いて自分の今の状況を考え、どうすればいいのか解決策を見いだす機会を子どもと共にするのです。～裏に続く～

1つ、事例を紹介します。理解しやすいようにお勉強に関する事例にしますね。

子：「あー、もう最悪！ 今日の漢字テスト、10問中3問しか合ってなかったよ」
母：「3問しか分からなかったの、へこんでいるんだ」
子：「うん。きのう習ったばかりの漢字で、本当に漢字ってきらいなんだよね」
私：「漢字が難しいと思っているんだね」
子：「いや、1年生の頃からちゃんと勉強しとけば良かったって後悔してるんだ。」
私：「そっか。前から勉強しとけば良かったって後悔してるんだ！」
子：「うん。でも、今日から頑張って卒業までに取り戻すから大丈夫！（覚悟が決まったと
いうようなスッキリした表情）」
私：「そう。やる気が出たんだね。頑張ってるね。」
子：「うん。」



【保護者の感想】

自分なりに「能動的な聞き方*1」をしたら、不思議と息子から勉強すると言ってきた。
いつもなら、私が「ちゃんと勉強してないからでしょ！」、息子が「そうだよ！漢字の勉強
は 大嫌いだから！漢字なんてわからなくていいよ！」、私が「勝手にしなさい！」とケン
カ腰になり、その繰り返しだった。

今回、いかに今までヤイヤイ言っで子どものやる気をそいでしまっていたかに気付いた。
また、息子の中には彼なりの原因分析や今後の計画などの考えがあり、それを受け止める
だけでいいんだということにも気付いた。

＊「能動的な聴き方」＝「親業」では、共感的に聴くことを能動的な聴き方と言います。

だれが問題に思っているかで変わる親子の対話

子どもが問題を かかえている。	受容線
問題なし	
親が問題だと思 っている。	

子どもからの訴えや文句、悩みの相談等々は、左図で
言えば「子どもが問題をかかえている」状況です。この
ような場合はまさに「能動的な聴き方」が子どもの思い
や感情を柔らげ自ら解決していく力へとつなげていきま
す。一度だまされたと思ってやってみて下さい。けれど
案外、非常に難しいですよ！

さて、左図にあるように、子育てをしていく上では、
子どもは問題だと思っても、気付いてもいないのに、親
は問題だと思っていることが多々あることでしょう。

例えば、“ゲームばかりしてなかなか食事をしない”
“脱いだ服を片づけない”等々日常生活の中では、むしろ

親だけがイライラすることの方が多いと思います。

そんな時に「お決まりの12の型」で「ゲームをやめて！（命令）」「もう食事をあ
げないからね（脅迫）」などと言っても、なかなか言うことを聞かず、結局はお互い
にふてくされてしまうことになりかねません。

このような場合、困っている親の思いの伝え方として「I（アイ）メッセージ」が
あります。特に相手の行動を変えさせる伝え方を「対決のIメッ
セージ」なんて言ったりします。例えば上記のゲームの場合、
「あなたがゲームをして食事をしないと、せっかくの料理も冷め
るし、片づけも遅くなるから、お母さんはとってもイライラす
る！」といった自分の思いや考えを伝えるメッセージです。

後者の服の片づけの場合は「脱いだ服が落ちていたら、部屋が
散らかっているように見えて、落ち着かない。いつもきれいな部



屋にしたいのにとっても困る！」という自分メッセージです。

子どもを責めているのではありません。ありのままの自分（親）の気持ちを伝える
だけです。子どもに自分の行動が、私にこんな悪い影響を与えていることに気づかせ
るわけです。子どもは自分の行動がまわりにどんな影響を与えているのか気付かない
ものです。けれど自分の問題や課題を自分で解決できる能力を持っていますので、「ゲ
ームばかりして悪かったな！」と【子どもが問題をかかえている】側に移行したとき
に、「ゲームを続けたかったのにやめてくれてありがとう」など能動的な聴き方でい
っしょに考えていくことで、子どもは主体的に自分自身の行動を改めていくなど、自
身を高めていくことができいくのです。このIメッセージの手法は、企業などの指
導やコーチングなどで「SBI情報」として活用されています。SBI情報とは、
【Situation（どんな状況で）、あなたの Behavior（振る舞いや行動）が、Impact（どん
な影響をもたらしたのか、だめだったのか）を伝えること】です。Iメッセージと能
動的な聴き方を併用しながら、我が子に関わっていくことは、親や保護者にとって、
不可欠な「言葉の技術」だと考えます。

みんな初めての親を経験し、親業は大変です。
だからこそ適切な関わり方を学んだ方が良いと思
っています。「親業」はまだまだ深いです。インタ
ーネットにも情報がいっぱいあるし、右のような
書籍も大変参考になります。

親や教師として、子ども達との関わり方を良好
にしていくことで、主体的で、自分自身で伸びて
いく子ども達を育てていきたいです。



保護者や地域の方と共に



4月29日、休日授業参観、ご参観ありがとうございました。



スポーツテストにたくさんの保護者がお手伝いをしてくれました。2年生の「野菜
を植えよう」では農協職員が子ども達を指導してくれました。本日（5/11）から始ま
るクラブ活動には、20名以上の地域の方が、子ども達に関わってくれます。多くの
保護者と地域の方に協力、支援してもらい、子ども達が生き生き成長していきます。